

『教育するという営み ～『不易と流行』から『不易流行』へ』



[子ども達のために]

後志教育研修センターは後志管内20市町村が管内の教職員、社会教育担当者等の資質・能力の向上を目指した研修講座事業等を協働で実施することを目的として設置されたものであります。昭和50年に発足し、令和6年度で設立49年目を迎えます。各市町村教育委員会をはじめ、北海道教育庁後志教育局、教育研究団体のご支援とご協力により、本年度の研修講座開催の体制を整えることができました。

Society5.0の到来や人口減少社会、グローバル化の進展などにより、社会情勢が激しく変化する時代に入っております。次代を担う子どもたちには、夢や希望を持ち、様々な困難を乗り越え、多様な人々と協働しながら持続可能な社会の創り手となる資質・能力が求められています。

研修講座は、現行の学習指導要領の理念である社会に開かれた教育課程の下、子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びに一体的に取り組みます。改訂の大きなテーマである主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、一人一人の子どもを主語にする授業改善を目指していきます。

[昨年度の実績と本年度の基本的な考え方]

昨年度はコロナ対策に留意しながら、全て集合研修で開催することができ、大きな成果をあげることができました。受講者は695名の参加があり、これは小樽後志の全教職員数の凡そ53%にあたります。特徴としては、受講者の姿勢が非常に前向きで、研修の重要性をしっかりと認識した姿がありました。特に、若い先生方が目的意識を明確に持って受講していることに頼もしさを感じました。

本年度は集合形式での開催を基本に、以下のように実施します。自己課題の達成率評価は継続していきます。講座受講証明書は受講した先生方と学校長との架け橋として、新たな教員研修制度2年目に活用していただければ幸いです。「受講して本当に良かった」「勇気もらった」「早く子ども達の前に立って授業がしたい」等の声がたくさん出るよう、学び続ける管内教職員を応援してまいります。

- ① 全ての講座を午後からの半日日程とする(13:00～16:00)
- ② 基本的には集合研修とするが、学校での授業実践は状況に応じて対応していく

[教育するという営み]

これからの学校教育は、ICTを上手く活用しながら、教育を推進することが大切になります。忘れてはならないのは、学校教育を不易と流行を分けて考えるのではなく、芭蕉が夜空(宇宙)を見て気づいたように「不易流行」をひとつのものとして考えることです。教育が「人間が人間を育てていく営み」である限り、人が人を育てるという学校教育の不易流行は何ら変わっていない事に気付かされます。教育するとは人としての感情を吹き込むこと、単なる知識や技術の教えではなく、人間性を育むことにあります。子どもの心に届くメッセージを伝えることであります。ポストコロナ時代のこれからの教育は、人が人を育む活動に還る、人と人とのつながりを戻すことが大切になってきます。

[講師陣に感謝]

結びになりますが、講師陣の皆様には本当に快く講師を引き受けていただきましたことに心より感謝申し上げます。研修講座の成功の鍵は何と言いましても講師の意識の高さにかかっております。本年度の研修講座に向けて開催された講師団会議の中、『子どもの心の扉は内側に鍵がある』と『教学半』という2つのお話しをした時、講師陣の真剣な眼差しがとても印象的で、本年度の研修講座は期待できると実感しました。本年度も多くの教育関係者の皆様が受講されるのを心よりお待ちしております。

令和6年4月

後志教育研修センター
所長 長谷川 誠